

Daily Report (号外)

～原油先物市場価格がマイナス圏に～

概要

20日のニューヨーク原油先物市場で史上初めて価格がマイナスとなりました。WTI(ウエスト・テキサス・インターミディエート)の期近5月物が、20日の取引で大幅な下落となり、清算値は前日から▲55.90ドル下落の1バレルマイナス37.63ドルとなりました。形の上では、原油の売り手が買い手にお金を払うという極めて異例な事態になりました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から世界的に経済活動が抑制されており、原油需要が激減しています。その結果、在庫が大幅に増加、保管スペースの不足が懸念され、一気に売りが加速したものと考えられます。5月物は4月21日に取引を終えることから、買い手はあと1日持ち続けると現物(原油)をそのまま受け入れることとなります。しかし、実物の原油を必要としない投機筋のファンドなども多く、これらが投げ売りをしたことなどが下落を加速させた模様です。

米国内では原油需要の急減を受け、原油在庫が貯蔵施設の能力限界に達するとの見方が強まっています。生産者は在庫を保管するスペースがないため、損失覚悟で投げ売りに転じた模様で、マイナス価格は原油の貯蔵コストを示唆しています。

また、石油輸出国機構(OPEC)が16日に公表した見通しによると、4月の世界の石油需要は日量約2000万バレル減る見通しであり、OPEC加盟国と主要な非加盟産油国で構成する「OPECプラス」は12日に970万バレルの協調減産で合意したものの、需給悪化が予想以上になる可能性があります。

市場の反応

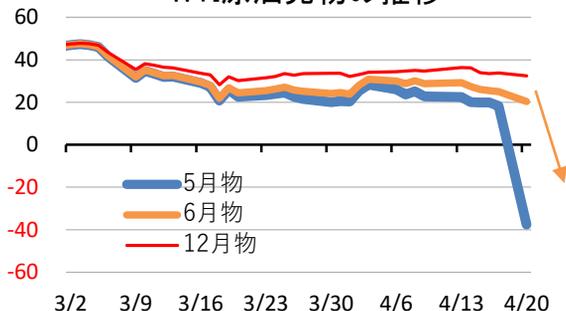
20日の米国株式市場は、ニューヨーク原油先物市場が史上初のマイナス価格に落ち込んだことが投資家心理を冷やし、3営業日ぶりに反落、ダウ工業株30種平均は前週末比592ドル05セント安の2万3650ドル44セント(▲2.44%)で取引を終了しました。新型コロナウイルスの感染拡大が収束に向かうとの期待から先週末に相場が大きく上げた後であり、目先の利益確定売りも一部出たとみられます。

ニューヨーク外国為替市場で円相場は、前週末比横ばいの1ドル=107円55～65銭で取引を終了しました。原油先物市場が史上初のマイナス価格に落ち込み、米株式市場が大幅に下落し、リスク回避のドル買いが強まる一方、米経済統計の悪化を受けて米長期金利が低下し、日米金利差の縮小を意識した円買い・ドル売りが拮抗しました。

米国10年国債利回りは前週末比▲0.04%低下の0.61%となりました。20日に米シカゴ連邦準備銀行が公表した全米活動指数が前月から4.25ポイント急落の▲4.19となり、また3カ月の移動平均も▲1.47に低下し、不況の可能性が高まる目安とされる▲0.70の水準を大きく下回る等、経済指標が悪化したことも金利低下を促しました。

(米ドル/バレル)

WTI原油先物の推移



(ドル)

ダウ平均の推移



(期間) 20/3/2～20/4/20(左グラフ)、20/1/31～20/4/20(右グラフ)、(出所) Bloomberg

今後の見通し

原油先物価格がマイナス圏まで下落した主な要因は、米国の原油在庫の急激な積み上がりを受けて、米国の貯蔵能力の限界が意識され、保管コストが嵩む現物を持ちたくない投機筋や生産者の手仕舞い売りが期近物(5月)を中心に膨らんだためと解釈しています。

一方で、現在の売買の中心となっている6月物が20ドル近辺に留まっているのはトランプ大統領が発表した経済活動の再開に向けた指針を受けて、需要が徐々に戻るとの期待に支えられている面が大きいと考えられます。ただし、先日決まった970万バレル規模のOPECプラスの協調減産では、経済活動縮小に伴う需要減を相殺するには不十分と受け止められていることや、短期的に在庫が貯蔵能力を超過する懸念が根強いことから今後、期先物が期近物に連れてもう一段下押しされる可能性があると考えています。

トランプ大統領は20日、原油価格急落を受けて政府の原油戦略備蓄を最大7500万バレル積み増すことを検討するとし、過剰供給の解消を目指す姿勢を明らかにしていますが、急激な原油在庫の積み上がりへの対応としては不安が残る内容につき、暫くは在庫動向及びニュースフローに大きく振られた荒れた値動きが続く展開を予想します。